

2022 年度第 2 回価格審査会の開催について

2022 年度第 2 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 5 月 13 日(金)		
場 所	6 階大会議室		
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問	シニアエンジニア
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長	
	鈴木 由香	株式会社日本設計	コスト設計部長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門	コリンズ・テクリスセンター長
	橋本 雅宏	東日本建設業保証株式会社	業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：大澤 勝、次長：小林 法雅	
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：島田 理久	
	監査審査室	室長：今井 豊	
	調査統括部(事務局)	部長：柴尾 治、課長：本間 哲	

2022 年度第 1 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 2 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管ぐい、鋼管、鋼板（全国）、異形棒鋼(全都市)、ねじ 節鉄筋(全都市)、H形鋼(全都市)、セメント（札幌市ほか 23 都市）レディーミクストコンクリート （能代市ほか 20 都市）、コンクリート用骨材（青森市ほか 42 都市）、道路用砕石(青森市ほか 27 都 市)、再生砕石(青森市ほか 4 都市)、コンクリート型枠用合板（全都市）、アスファルト混合物（函 館市ほか 13 都市）、ストレートアスファルト（那覇市）、燃料油(全都市)、鉄スクラップ(全都市)、 非鉄スクラップ(九州除く全都市)ほか	
・価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
レディーミクストコンクリート（三条市）、排水金具（全国）、燃料油（全国）	
2. 比較資料	
・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。	

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	<p>今月は、鋼材価格の変動が北海道の全地区で見られた。先月、冬場で商いが少なく一気に上がったという説明であったが、それと同じような理由か</p>	<p>北海道地区の鋼材は、不需求期の1～3月は商談が少ないため値上がりが遅れ、4～5月に入って動き出し値上げが浸透した。本州では既に上がっている製品も、北海道においては今になって上がっているという製品もある。</p>
質問 2	<p>ロシアからシリカが入ってきていないため、シリカを使っているシャッターや塗装のメーカーは、製造中止や受注を中止しているという情報がある。そういった話はあるか。</p>	<p>シャッターメーカー等でシリカが理由で納入できないという具体的な話は現時点では入手していない。今後注視していきたい</p>
質問 3	<p>再生砕石が青森地区で値上がりしているが、全国的には横ばいが続いている。青森地区で値上がりしている特殊な理由はあるのか。</p>	<p>再生砕石は解体工事等で発生した廃材を受け入れた後、砕石の規格に砕いて、出荷される。販売店は製品販売以外にも廃材の受け入れが収入となっている。都市部や一般的な地区では、製品価格を抑えて出荷量を確保し、廃材を多く受け入れることで収入を多く得ようとする傾向がみられる。一方、廃材の受け入れが比較的に見込みにくい青森地区では、増加している製造・輸送コストを製品価格に反映したい意向が販売側に強くあり、それが浸透した結果とみられる。</p>
質問 4	<p>ストレートアスファルトが那覇市で上昇。理由は原油価格の値上がりとのことだが、燃料油は那覇市も含めて全国的に下がっている。ストレートアスファルトの那覇市のみ上がっている理由は何か。</p>	<p>ストレートアスファルトで那覇市のみ値上がりしたのは、那覇市の商習慣が他地区と違うためである。本州を中心に四半期ごとに価格交渉を行う商習慣が一般的であるのに対し、那覇市では毎月交渉を行っているため、4月の原油価格高騰が那覇地区にだけ早く反映された。また、燃料油が全国的に下がっている要因は、激変緩和対策の影響であるため、原油価格は上がっているが燃料油は値下がりした。</p>
質問 5	<p>排水金具に上伸と下落が混在している。理由に「主要メーカーの生産中止により市場の主流が他メーカーの価格へ移行」とあるが、規格は同じものなのかなど、どのような状況か教えてほしい。</p>	<p>主要メーカーの生産中止による影響から、他メーカーの製品に移行した。同一規格のものについては、他メーカーの価格設定、流通の販売姿勢等の違いから市場取引においても上伸と下落が混在した。</p>

質問 6	H形鋼の説明に「荷動きの低迷が続き」とあるが、今後、荷動きが活発化し品薄感が発生するような気配はあるのか。	都市部などで大型のプロジェクト案件は動いているが、需要を下支えしている中小物件は低調である。鉄筋や H 形鋼などの主力製品については品薄感というのは今のところ全く出ていない。
質問 7	コンクリート型枠用合板の説明に「現地の雨季は明けた」「原木不足や労働者不足」とあるが、どのような状況か教えてほしい。	現地とはマレーシアとインドネシアであり、雨季とは一般的に 10、11 月くらいから 3 月までを指す。雨季は原木を切り出せないため、例年この時期は原木が不足するという状況がある。また、労働者不足とは、新型コロナウイルスによる移動制限が解除されても労働者が戻らない状況が続いていることである。
質問 8	レディーミクストコンクリートの宇都宮地区における「新規引き合い物件」とはどんなものか。	大規模物件としては、自動車メーカーの工場や、大型物流施設、大型の高架橋などがある。
質問 9	レディーミクストコンクリートの能代地区における 2,000 円の上伸理由は何か。	原材料価格の高騰、輸送コストと製造コストの増加は全国的な上伸理由であり、能代地区においても同様である。能代地区は、生コン協組の組織率が高い地域であり、2,000 円の値上げも浸透しやすい環境にあった。
質問 10	異形棒鋼の説明で、原料の鉄スクラップ市況は、弱基調に転じたとあるが、最終的には「目先強含みの見通し」としている理由はなにか。	直近で鉄スクラップ価格が若干下落しているが、メーカー各社はこの鉄スクラップ価格は依然高値圏であると認識しており、電力料金や副資材価格は上昇基調にあり、製造コスト増による採算悪化に強い危機感を持っている。値上げへの強気姿勢を今のところ崩していないため、目先は強含みが継続する見通しである。
質問 11	燃料油の那覇地区は下落しているのか。入稿情報表では下落に那覇地区の記載がある一方で、主要建設資材の需給および価格動向では那覇市は横ばいとなっている。	那覇地区の燃料に関しては下落と横ばいが品種によって混在している。主な品種では、軽油のローリー渡し、C重油、灯油のスタンド渡しが横ばいで、ガソリンは下落している。入稿情報表では燃料油全般のなかで、那覇地区のガソリンが下落していることから、そのように記載している。主要建設資材の需給及び価格動向では、軽油のローリー渡しを採用しているため横ばいのグラフとなっている。

質問 12	<p>デッキプレートと合成スラブ用デッキプレートの大阪地区、福岡地区が値上がりしており、理由は「原材料（鋼板）の値上がりに伴うメーカーの値上げが浸透」とある。一方で、鋼板の値上げの地区名をみると大阪地区と福岡地区は入っていないが、どのような状況なのか。</p>	<p>デッキプレートと合成スラブ用デッキプレートは、鋼板から加工されて製品となり販売される製品である。地区ごとの需給動向、在庫状況によっても値動きが変わってくるため、鋼板とデッキプレートの値動きの時期や幅は、必ずしも一致するわけではない。</p>
質問 13	<p>セメント価格がこの1～2カ月に全国的に値上がりしたが、レディーミクストコンクリートは同様の動きとはなっていない。原材料のセメント価格が上昇したからといってレディーミクストコンクリートが値上がりするものではないということか。</p>	<p>原材料が上昇すればそれが価格転嫁されるという流れが一般的であるが、生コンの場合は地場性の強い資材で、地域それぞれに生コン協組があり、それぞれ組織率の高さや員外社との競争性の高さなど、地域ごとに状況が異なる。セメント価格が値上がりした地区において生コン価格が上昇することは多いが、必ずしも生コン価格が連動して値上がりするというわけではない。</p>
審議結果	<p>「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上